

日本歯科色彩学会

『色彩』

NEWS LETTER

第13号

1997年2月20日発行

発行所：日本歯科色彩学会

〒101千代田区神田駿河台2-1

廣瀬お茶の水ビル4階

クインテッセンス出版(株)内

TEL 03-5259-0506

FAX 03-5259-0556

発行者：橋口緯徳

担当者：桑田正博、指宿真澄

案内

第5回日本歯科色彩学会開催ご案内 (第2報)

2001年に向けて色彩への挑戦

大会長 橋口緯徳

塩尻市に在ります松本歯科大学に於いて、第5回日本歯科色彩学会を開催するはこびとなりました。このところ郡山、東京と所を移した学会であります、この度は松本平ということになりました。ご存じのように松本は、南北アルプスを遠景に、数々の山々を一望し、上高地に代表される自然に恵まれた風光明媚な地であります。松本城、開智学校、碌山美術館などの旧跡に、浅間、山辺、白骨、中房、穂高、蓼科、等々枚挙にいとまのない数多くの温泉郡に恵まれています。学会の開催時の9月は秋風の気持ちの良く爽やかな時期であります。来年2月に迫ったオリンピック準備も徐々に整えられつつある信州です。学会の出席に加え、なにか得て帰られるようゴルフや観光も準備させていただき予定です。生まれたばかりの学会を、如何に育てていくかはみなさんお一人お一人の創意に任されています。お一人でも多くの方にご参加いただき、より大きな飛躍が遂げられるようにこの学会の方向性についてご意見をお出しください、より良い会へ発展させていただきたいとお願いする次第であります。

日時：平成9年(1997年)9月7日(日) 9:00~16:30

会場：松本歯科大学 図書会館

〒399-07 長野県塩尻市広丘郷原1780

電話 0263-52-3100 (代)

1. 学会内容 : 特別講演「演題：色はドラマ」

高瀬吉雄 (信州大学名誉教授・松本歯科大学理事)

シンポジウムⅠ

「前歯と成形修復材の色彩」

シンポジウムⅡ

「硬質レジンの理論と実際」

一色調再現のテクニクー デモンストレーション

一般講演 (ポスター)

各シンポジウムは講師の先生3~4人に講演或いは実技をしていただいた後、質疑応答とする。業社展示会場もあります。

2. 理事会・評議委員会は9月6日(土) 14:00~17:00まで
懇親会は9月6日(土) 17:30~ 行われます。(学会会員すべて歓迎)
3. 9月8日(月)は見学会、観光、ゴルフ大会を予定しています。
申し込み方法など詳細は、次号ニュースレターでお知らせします。
4. 学会参加登録および参加費
 - ①事前登録の場合 正会員 5,000円
非会員 6,000円
 - ②当日登録の場合 正会員 6,000円
非会員 7,000円
5. 事前登録は平成9年(1997)7月31日までに下記大会事務局まで郵送またはファクシミリにてお申し込みのうえ、銀行口座にお振り込み下さい。
6. 大会事務局：〒399-07 長野県塩尻市広丘郷原1780
松本歯科大学理工学教室 高橋重雄宛
ファクシミリ 0263-52-4281
7. 銀行口座：八十二銀行 松本駅前支店
412 (店番号) 普通預金624-848
第5回日本歯科色彩学会会計 代表者 高橋重雄
8. 日本歯科色彩学会にご入会希望の方は下記にお申し込み下さい。
〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1
クインテッセンス出版株式会社内 菱田 望宛
電話 03-3292-3691、ファクシミリ 03-3292-3696

案内

特別セミナー『ポーセレンクラウンの層構造』

<それぞれの厚みと層構造>

月 日：1997年6月26日(木)

時 間：午後5時30分~8時

場 所：日本歯科技工士会館(JR市ヶ谷駅5分)

総合司会：河野 篤

パネラー：伊集院正俊

桑田正博

シンポジウム司会：指宿真澄

人間の歯の特徴の一つに、エナメル質のもつ半透明性がある。シンポジウムで、各パネラーは20分ずつ講演をし、その中でこの点に関して問題の提起を行い、ディスカッションに入る。

さて、このテーマに関して、是非この点を聞きただしたいという具体的な問題意識のある方は、前もって、下記までファクシミリを入れて下さい。その中から一般的なものについては、当日パネラーからの回答を用意したいと思います。

FAX 03-5412-8016 指宿真澄司会者あて、メ切は特に設けません。当日でも受け付けます。

案内

セミナー『最新カラー写真の伝送技術』

月 日：1997年3月30日（日）

場 所：青山メトロ会館（地下鉄銀座線外苑前下車2分）
東京都港区南青山2-27-24

講 師：田島譲二氏

NEC情報メディア研究所パターン認識研究部
主管研究員

定 員：10名先着

申し込み：FAXにて、氏名と連絡先をご連絡下さい。

FAX番号 03-5412-8016 指宿真澄あて

会 費：当学会会員は無料、非会員の方は5000円

NECは今年度Windows95上での色管理システムを開発した。特に、画像をネットワーク上で伝送する場合を十分に考慮したものである。歯科医院とラボの間でパソコンで情報をやりとりする時代が必ず来る。このシステムは歯の色を意識して開発されたものではないが、ひとまず、開発現場の生の声を聞いてみたいものである。パソコンを使っている人、これから購入を計画中の人にはまたとないチャンスです。少人数ですから、なんでも気軽に質問できます。

表色班主催

情報

第8回国際色彩学会大会（AIC Color 97 Kyoto）

期日：1997年5月25日（日）から30日（金）まで。

24日は前夜祭で、国立パリ装飾美術学校教授ランクロ氏の「パーソナルカラーとパブリックカラー」の講演があり、通訳がつきます。

会場：国立京都国際会館。

特別講演：平山郁夫氏（前東京芸術大学学長、日本画家）「日本の色と質」

招待講演：27、29、30の3日間は午前中に各日2演題づつ行われます。色知覚、環境色彩、色彩工学、測色が主なテーマです。

シンポジウム：26、27、29、30日の午後3時から行われます。「色の認知とマシンビジョン」「カラーマネージメント」、「21世紀に向けてのカラーデザイン」、「甦る日本美術」です。

シンポジウムの第1テーマでは、色認識に関して、心理物理学および生理学的観点から議論を進め、マシンビジョン、コンピュータビジョンへの応用にまで発展させます。第2テーマでは、マルチメディア時代における画像の分野でもっともホットな話題です。色の見えのモデル、実際のカラーマネージメントシステムのあり方などについて討論されます。第3テーマでは、21世紀に向けてのカラーデザインのあり方について多角的な側面から議論します。

口頭発表およびポスター発表：発表は公用語の英語で行われますが、座長の一人は必ず日本人ですから、質問や答弁、討論では通訳してもらえます。なお、発表の申し込みは既に切です。

問い合わせ先：AIC Color 97 Kyoto事務局 電話075-341-1618、FAX075-341-1917

報告

環境班・見学班合同見学講演会

第5回の見学は昨年12月12日(木)午後3時から日本ペイント(株)デザインセンターにおいて、見学班と環境班の合同で開催した。

はじめに見学班の片山(伊)部会長より挨拶があり、ひきつづき日本ペイント(株)デザインセンターの長谷川博志先生の環境の色彩についての講演が行われた。長谷川先生は、建物や公共の施設など色彩の設計を行うためには環境を考えて計画するという講演であった。また具体例をスライドによる図説によって説明され、ついで会場となったデザインセンター内の施設とコンピュータグラフィックスの操作を専任の方から説明を受けた。色彩の計画という仕事は、きわめてクリエイティブな作業である反面、さまざまな色彩資料や情報の詰まったファイルを各フロアへ至る所で目にしたが、膨大な資料に埋もれることなく、整理された内部を脇目で見ながら感心させられた。

この他デザインセンター施設の中には、色の見えに対する配慮も十分考慮され標準光源や色温度の違いによる確認が容易に行える施設などがあり、色彩計画のプレゼンテーションに対するための照明の他に測色機器などの設備があるなど紙面でご覧頂けないのが残念である。

見学の後、富山大学工学部情報工学科助教授の中嶋芳夫先生から視覚情報の色彩生理と各種サインの生理学的認知情報について講演が行われた。視覚生理における色彩の認知情報の知見から環境をどのように考慮しなければならないかという講演であった。色彩の認知プロセスについては、脳内における情報処理について既存のテキストには紹介される機会の少ない講演内容であった。色彩知覚が情報として処理される経緯の内容については、演色性や色の同化現象を知る基本的な理解を図るために必要な基礎知識として受けとめることができた。

参加された人数は12名で少なかったが、色彩計画が如何に重要であるかという関心を持たれているため充実した内容の見学・講演会であった。

最後に、久光環境班委員長より講演していただいた長谷川先生と中嶋先生に当学会より感謝状を贈呈し、橋口会長よりお礼の挨拶が述べられ閉会した。

この度の環境班および見学班主催にあたり会場を提供していただいた日本ペイント(株)にたいし、改めて御礼申し上げます。

(元呑昭夫)

予告

インターネットで見ることができる色彩情報

インターネットは、さまざまな情報の交換が世界的なスケールで可能である。インターネットがあちこちで話題になるのに伴って、インターネットをもっと利用してみたいという人が増えています。情報収集を目的としてアクセスするだけでも楽しみが倍増するだけでなく、実利も得られます。日本は、ともすれば情報収集に熱心だが、自らはあまり情報を公開しない国だと言われてきたが、これからはインターネットを通して、バイリンガルで情報発信を行うことが大切だという認識が各企業に見られるようになった。インターネットで見ることができる色彩情報について、内外33社のホームページを元呑昭夫氏(本会常任理事、カラーランド社)がまとめた原稿をいただいたので、5月発刊予定の「歯科の色彩」に掲載します。

依頼

アンケートの回答、Q & AのQ募集

「歯科の色彩」第3巻1号を昨年秋に発行しました。その巻末のピンク色のページの提案用紙の回答を求めています。また、人気の高いQ & Aをより充実させるために、質問をお寄せ下さい。表記の学会事務局または03-5412-8016の指宿編集長のFAXでも結構です。